

報道関係者各位

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ、2023年グローバル市場見通しを発表**— 荒波を乗り越える —**

【2022年12月13日、東京】ステート・ストリート・コーポレーション（本社：米ボストン、NYSE：STT）の資産運用部門であるステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ(以下、「当社」)は、2022年12月8日（米国東部時間）、2023年以降のマクロ経済動向と主要な投資テーマに関する「[2023年のグローバル市場予想：荒波を乗り越える（Navigating a Bumpy Landing）](#)」を発表しました。ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズでは、市場の不確実性とボラティリティは当面継続すると見ており、投資家は相場回復の可能性とリスクテイクに適した投資環境を待ちながら、債券やダウンスайдプロテクション戦略を検討すべきであると考えています。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズは、世界経済の減速と地政学的な逆風にもかかわらず変曲点が見えており、世界中のインフレ率が今後6か月以内に低下するという慎重ながら楽観的な見方をしています。当社は、供給の改善と需要の鈍化が強力なインフレ緩和のストーリー展開を可能にすると考えており、より望ましいインフレ率のデータにより、米連邦準備制度理事会（FRB）はタカ派のスタンスから下方修正し、2023年の第4四半期に利下げを行う可能性が高いと見ています。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズの最高投資責任者のロリ・ハイネルは、次のように述べています。

「世界経済の減速が先進国と発展途上国いずれの国でも強まり、2023年には世界経済の成長予測を2.6%に引き下げました。2022年の約20%の米ドルの上昇は、世界的な経済成長の困難を深め、予期せぬ脆弱性を顕在化させる可能性があります。」

株式投資は綱渡りの状況

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズの見通しでは、株式は2023年に持続的に回復軌道に入ると見ていますが、株式投資家が感じている痛みが年半ばまで収まる可能性は低く、正確な緩和のタイミングは中央銀行の動向に連動すると予想しています。

チーフ投資ストラテジストのゴーラブ・マリクは次のようにコメントしました。

「このような厳しいマクロ経済状況を背景に、私たちは安定した収益と強力なビジネスモデルを持ち、価格圧力に対処できる十分な耐久性を有する優良銘柄に注目しています。新興国市場では、中国市場の低迷と米ドル高が株式投資機会を制限しています。2023年も市場の低迷とボラティリティが残ると予想していますが、投資家は市場回復に備える必要があり、賢明な時期に待

機資金を投資することで利益を得ることができると考えています。」

米国 SPDR 部門チーフ投資ストラテジストのマイケル・アローンは、「2023 年に入ると、多くの米国の投資家は、FRB による積極的な利上げの時差効果により、景気の悪化、企業の収益の減少、失業率が増加すると予想しています。市場は 2023 年に緩やかな成長を見せると予想していますが、経済、収益、雇用市場のデータが回復の兆しを見せ始める前に、投資家は経済サイクルの次の段階を織り込み始める可能性があります」と述べています。

債券は買い場

金利の上昇、市場のボラティリティ、セクター全域でのスプレッドの拡大は、債券のトータルリターンを予想外の強さで圧迫し、債券投資家にとって、ここ数年で最も困難な年のひとつとなりました。当面は逆風が続くと予想されていますが、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズは、広範な売り越しと継続的な市場のボラティリティにより、魅力的な投資機会がいくつか生まれたことから、2023 年には長期投資家にとって明るい兆しが見えると考えています。

アジア太平洋地域の投資戦略・リサーチ責任者のミシェル・バーロウは、次のように述べています。

「金利を选好し、スプレッドの商品よりもデュレーション、ハイイールド債よりも投資適格債を选好しています。クレジット環境がより明確になるにつれ、投資家は魅力的な価格水準に下落した新興国債券を含む世界の債券市場を検討する機会があると見ています。金利のピークが近いことを示す証拠が増加傾向にあるため、クレジットは依然として短期的には逆風に直面しているものの、今後数四半期は買い場となるとみています。」

より大きなボラティリティとより多くのダウンサイドプロテクション

当社の見通しでは、市場の不確実性とボラティリティが高まる中、投資家が市場の混乱に耐えられるようなポートフォリオの仕組みを検討する必要があることも強調しています。

欧州・中東・アフリカ地域(EMEA)の投資戦略・リサーチ責任者のアルタフ・カッサムは、「中央銀行がインフレ対策とバランスシートの縮小を目指す中で、市場を支える可能性が低くなっているため、『グレートモデレーション』の期間は終わったと考えています。ボラティリティの高い『ニューノーマル』な環境は、依然として株式投資家に投資の機会を提供すると予想されるものの、下落幅が大きく、回復幅が小さくなる可能性もあります。現在の投資環境のリスクを積極的に管理するには、効果的なダウンサイドプロテクション戦略が必要です」と述べています。

米ドル高はピークを打つ

また、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズは 2020 年末以来の波乱の時期に相対利回りの上昇と、安全資産としての魅力によって高まった米ドルの価値は 2023 年にピークを迎え、下落に転じると見ています。当社の見通しでは、最も可能性の高いシナリオとして、米国を除く世界経済の成長率が米国の経済成長率のギャップを縮める環境であると見ています。高インフレからインフレ緩和への移行と、中央銀行による成長重視への政策転換は、特に米国以外の国のリスク資産の幅広い上昇の可能性があると見ています。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズについて

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズは、過去 40 年にわたり、各国政府や機関投資家、金融プロフェッショナルの皆様へ資産運用サービスをご提供しています。厳密なリサーチや分析、厳しいマーケット環境における経験を礎としたリスク考慮型アプローチをもとに、アクティブからインデックス戦略まで幅広く、コスト効率に優れたソリューションを提案いたします。そしてスチュワード（受託者）として、社会、環境への配慮が長期的な成果をもたらすということをお客様に理解を深めていただくよう努めています。インデックス運用と ETF、ESG 投資の先駆者として、投資における新しい世界を常に切り拓き、約 3.26 兆ドル²を運用する世界第 4 位¹の資産運用会社へと成長しています。

1. Pensions & Investments Research Center, 2021 年 12 月末時点。
2. 2022 年 9 月末時点、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ・ファンズ・ディストリビューターズ・エルエルシー（「SSGA FD」）が営業を行っている SPDR の残高約 551.2 億ドルを含みます。SSGA FD は SSGA の関連会社です。すべての運用資産残高は監査前の数値です。

【本件に関するお問い合わせ先】

ステート・ストリート 広報部

Japan_Corp_Comms@jp.statestreet.com

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

東京都港区虎ノ門 1-23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー25階 Tel: 03-4530-7152

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 345 号

加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会

© 2022 State Street Corporation - All Rights Reserved.
5340209.2.1.APAC.RTL Exp. Date: December 12, 2023